

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171477832		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 発寒		
所在地	札幌市西区発寒2条2丁目3番20号		
自己評価作成日	平成25年10月23日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームが力を入れている点は、一年を通して、行事や外出で季節を感じてもらえるようにしています。春のお花見に始まり、果物狩り、秋の紅葉狩り、外での焼肉パーティー、クリスマス会など、室内に閉じこもりがちなようにしています。また、町内行事にも積極的に参加しています。老人クラブや河川の清掃、盆踊りなど定着している物も数多くあります。今年度は、更に、「発寒南の子どもを守る会」へ登録し、小学校の下校時、ホームの前を通る子ども達に声をかけ、安全に下校出来るよう見守っています。それらの活動も、利用者さんの体調や、要介護度により、無理のないよう配慮しております。みんなが、一つになって参加出来る体操やレクリエーションも、毎日の日課となっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr&JigyosyoCd=0170400832-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 8 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者介護の想いを込めて開設したホームは、地域とのふれあいを大事にし、利用者職員が共に支え合いながら暮らすという理念を運営に活かして実践しています。ホームは、老人クラブや盆踊りなど多数の町内会行事参加や文化祭への利用者作品展、幼稚園児のホーム慰問、こども見守りネットワーク会議登録、周辺住民との親しみのある日常的挨拶交換など地域との強い一体感が感じられます。介護事業に真摯に取り組む法人代表と管理者は職員間等の良好な人間関係に十分配慮し、これが利用者へのケアサービスに反映されています。ホーム内は明るく親しみのある雰囲気があり、利用者はのんびりと安心して過ごしています。利用者は、町内会行事参加以外に花見や外食、ショッピングセンター訪問など一人ひとりの希望に合わせて外に出る機会も多く、変化のある暮らしを楽しんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎週月曜日の申し送り時に、スタッフで唱和し、スタッフ全員が目が届く所に掲げている。	地域の中で共に暮らしながら支え合う内容の法人理念とホーム独自の理念をつくり、ホーム内に掲示すると共に月曜の朝に唱和しています。職員は理念を理解の上共有し、日常業務に反映させるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、町内の老人クラブに参加している。また、町内行事（盆踊り、川の清掃、文化祭へ作品出品など）に参加している。	利用者と職員は、老人クラブや清掃活動など町内会諸行事への参加ばかりでなく、地区文化祭へ利用者の作品出展、複数回に及ぶ幼稚園児の慰問、こども見守りネットワーク会議登録など積極的に地域との交流に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブに参加する事を通して、認知症の人の理解、支援を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各階毎に、テーマを設け、意見交換をし、現状を報告し、アドバイスをもらって生かしている。	運営推進会議は、隔月毎にテーマを設定して開催し、多数の家族や町内会メンバーが参加しています。会議の意見から地域の見守りネットワーク会議登録を行うなどホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、地域包括センターの職員を通して、運営推進会議で伝えている。	管理者は、運営推進会議や管理者連絡会等で行政担当者と接触の機会も多く、電話等での相談や情報交換も行っています。さらに、市から介護関係の講師依頼を受けるなど行政との協力関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、職員研修を通して、正しく理解し、拘束にならないよう、常に意識している。	身体拘束をしないケアについて具体的事例に基づき勉強会を実施しています。また、職員はその必要性を十分理解し、実践しています。関連の各種マニュアルや資料も整備し、活用しています。玄関の施錠は夜間のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を、内部、外部研修を通して学び、職員間でも、不適切なケアにならないよう、お互いに注意しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、外部の研修に参加し、後見人制度について学んでいる。実際に、後見人の方と、連絡を取り合い、利用者さんを支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は代表が行い、その都度説明している。不安や疑問点は、管理者やスタッフも随時、対応し理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を二ヶ月に一回、また、家族会を設け、そこに参加してもらうことによって、意見、要望など聞いて反映させている。普段の来訪時も、随時間かせていただいている。	家族のホーム来訪時や家族会の時に利用者の様子を伝えています。また、毎月発行の家族通信でも一人ひとりの暮らしぶりを写真を添付して郵送しています。家族からの要望等は職員間で話し合いながら運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	例えば、スタッフの欠員など、管理者や代表に訴えている。代表は、求人募集などをして、環境の改善に努めている。	法人代表者と管理者は、日常業務や毎月開催のカンファレンスで職員と話し合いをしており、提案等を運営に反映させるようにしています。また、代表者及び管理者と職員の個人面談で職員の話聞く機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、時間を設けて、各スタッフと面談をし、状況の把握に努めている。職員の欠員の改善や、労働時間への配慮にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加の機会を作っている。交通費、会費は会社負担としている。また、個人の資格取得のための環境作りにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に、4回ほど、西区管理者連絡協議会の企画の研修、勉強会に、職員、管理者が参加し、他のグループホームとの交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	業務中心ではなく、利用者さんと話す時間を、一日の中で、多く設け、利用者さんのお話を傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、初めての面会時に、家族自身の近況を聞いたり、利用者さんの暮らしぶりを伝え、家族との会話を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は、すぐ基本情報をスタッフ間で共有し、毎月、カンファレンスを行い、状況に応じた支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目線を合わせた介護、日々のお手伝いを一緒にする事によって、共に日常を生活する者同士として、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問した時は、本人の様子を報告し、情報を共有し、家族と本人の関係がうまく行くよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住んでいた町や、馴染みの店や友人の家に行くための支援をしている。	利用者の家族や知人が来訪の際は、ホーム内で居心地よく過ごせるよう配慮しています。また、利用者が希望する美容室や馴染みの店での買い物などに職員が付き添いながら支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のレベルにかかわらず、みんなでレクや体操など、一つの事をする努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に一度、退居家族との家族を行い、交流を絶やさないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一回、全体のカンファレンス、個人のカンファレンスを開き、希望、要望の把握に努めている。	利用者の思いや意向把握が困難な時は、ケアプランの基本情報シートや家族からの情報を参考にし、職員間でも相談しながら利用者の要望に応えるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の方にわかる範囲で、センター方式ののっとり、生活歴、入居前の生活について、情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の様子を時系列で、個人記録に記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回、管理者、スタッフが集まり、全員のカンファレンス、個人のカンファレンスを開き、現状に合った介護計画を作成している。	毎月開催の総合カンファレンスと利用者一人ひとりについてのカンファレンスで現状を把握し、家族や医療機関とも連絡を取りながら3ヵ月毎にケアプランの見直しをしています。ケアプランは、解り易く見やすいように工夫しており、全職員が共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変わった事は、個人記録に色を変えて記入したり、紙面に書ききれない時は、紙を足すなどして職員一人一人が記録を工夫し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のカンファレンスを通じて、その時の状況に応じて支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や、老人クラブなどに参加したり、川の清掃、赤い羽根の募金などに参加して、出来る能力を発揮出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週、または毎週、かかりつけの主治医の訪問診療を受けている。また、何かあれば、その都度、専門医を紹介してもらう。	協力医療機関の訪問診療が隔週毎に実施され密接な連携体制にあります。利用者が受診で出かける時は家族と職員が共に付き添い、利用者の病状等を職員が明確に把握するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者とかかわり、いつもと様子が違う場合など、早急に職場内の看護師に報告し、支持をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師とは、基本情報や診療情報提供書などのやりとりをしている。また、他の医院へ入院した場合など、お見舞いを兼ねて様子を見に行ったり、家族と共に、ムンテラにも参加している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ターミナルケアについての説明や、同意を取り、スタッフ間も統一したケアで取り組んでいる。	入居時に重度化に関する指針を家族へ説明して同意書を頂いています。利用者の状態変化に応じて家族や医療機関と相談しながら事後のケアサービスに取り組んでいます。職員にも看護師など経験者が在職しており、ターミナル研修も受講しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防署職員を招いて、救命救急の職員研修を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署が立ち会いの総合避難訓練は、春と秋に年2回、また、月に一度、事業所だけの避難訓練を実施している。また、運営推進会議と避難訓練を重ねることで、地域住民との連携も行っている。	地域住民も参加している年2回の定期避難訓練と毎月事業所独自の避難訓練を実施しています。職員は、白石区の市民防災センターへも交代で研修に参加しており、災害に備えて食料品、その他の備蓄品も備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導も、静かに声かけしたり、居室への出入りも声をかけて入るようにしている。	職員は、虐待防止や接遇の研修を受けて、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう声えかけなどケアサービスに反映させています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、要望は日々の生活の中で、随時、耳を傾けるよう努力している。また、外出の希望があれば、本人の希望を受け入れ対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや体調を大切に、食事や入浴、外出などを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理美容に来てもらったり、季節に合った服装をしてもらうよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会や季節色のある食事では、食べる前に説明したり、食後、茶碗すすぎ、茶碗拭きなどをしていただいている。	献立は職員が検討し、外部管理栄養士のチェックを受けています。利用者と職員は食事を共にしながら楽しく過ごしています。また、誕生日や季節行事の特別メニューや外食など変化のある食事に配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小食の方には、見た目を考えて小盛りにしたり、むせや詰まりのある方には、刻んでだしたり、とろみをつけている。水分量は、一日のトータルを集計し、不足にならないよう注意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は三回とも、必ず職員がついて一人一人口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の認知レベルに合わせ、ある程度まで本人に任せ、最終的な段階で介助に入っている。	職員は、排泄チェック表で利用者一人ひとりの状態を把握しています。さらに、表情や様子を覗いながら人格や誇りを損ねないよう配慮して声かけでトイレ誘導を行って失敗の無いよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便の状況を観察し、ヤクルトやのむヨーグルトを定期的に飲んでもらったり、食べ物に気を遣っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事などが無い限り、いつでも入浴出来るように準備している。	入浴は、日中の時間帯に週2～3回を目処に実施しています。入浴を嫌がる利用者には上手に話しかけながら支援していますが、無理をせず日時の変更による入浴にも配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操、レクなどを行ったり、生活リズムに注意しながら、良く眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、各個人毎に、日誌に付け、いつでも確認出来るようにしている。薬の変更がある場合は、業務日誌に特記している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来そうなお手伝いをお願いし、終了後には、感謝の言葉を伝えている。お誕生会のメニュー、おやつなど、それぞれの好みに合わせて準備している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スナックに行きたいという利用者さんにスタッフが同行し、カラオケを歌い、お酒を飲んで楽しんだり、ラーメン好きの利用者さんと、近所のラーメン店へ同行している。	天候状況に併せてホーム周辺や公園を散歩しています。ホーム車両でお祭りなど種々の町内会行事、花見、さくらんぼ狩り、都市公園、ショッピングセンターなどにも頻繁に出かけています。また、利用者の個別対応で希望箇所への外出も多く、ホーム内に籠もらない暮らしを積極的に支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、お金を持って買い物出来る利用者さんがいないため、行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの友人に電話で話せるよう、また、家族からの手紙やハガキには、電話で返事が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、利用者さんと一緒に作品を制作し、壁飾りにしている。トイレは大きく表示し、分かりやすいようにしている。また、壁には、思い出の写真などを貼り出している。	居間兼食堂の共用空間はエアコン設置で温度管理に配慮され、利用者の作品や写真、季節の飾りなどで親しみのある雰囲気になっています。浴室やトイレも清掃が行き届いており、洗面所も使いやすい構造です。利用者は居間兼食堂で体操やレクリエーションを楽しんだり、ソファでくつろぎながらのんびりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者とのかかわりが苦手な利用者さんや、気のあった利用者さん同士、更に全体が一つになれるような、座席配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者さんが使っていた物やなじみの物をおいている。ベッド付近にも、家族の写真や飾りなど、自分の好みの物を飾っている。	明るく十分なスペースの居室内には容量の大きいタンスが設置されており、壁面側には物干しに便利なポールが下がっています。利用者は、好みの家具類や物品を自由に配置し、家族の写真や手作り作品を飾りながら居心地よく暮らしています。	居室ドアやドアの横には利用者が間違わないよう写真や名札などが付いていますが、大きな字で名前表示の場合は、用紙や字体などを工夫することが望まれます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに、利用者さんの名前や写真を付けたリ、トイレなども分かりやすく大きく表示している。		